



Title	名誉教授片野一郎先生略年譜
Author(s)	
Citation	一橋論叢, 58(6): 800-805
Issue Date	1967-12-01
Type	Departmental Bulletin Paper
Text Version	publisher
URL	http://doi.org/10.15057/2674
Right	

名誉教授片野一郎先生略年譜

明治三十六年（一九〇三年）

四月四日 東京市小石川区白山前町に生る。

大正五年（一九一六年）

四月 私立京華商業学校入学。

大正八年（一九一九年）

七月 病氣療養のため私立京華商業学校第四学年中途退学。

大正一二年（一九二三年）

四月 健康恢復し私立京北実業学校第四学年編入。

大正一四年（一九二五年）

三月 私立京北実業学校卒業。

四月 東京商科大学附属商学専門部入学。

昭和三年（一九二八年）

三月 東京商科大学附属商学専門部卒業。

四月 東京商科大学学部入学。

昭和六年（一九三一年）

三月 東京商科大学学士試験合格。学部在学中高瀬荘太郎教授のゼミナールに属す。
四月 私立京北実業学校教諭に奉職。

昭和十三年（一九三八年）

五月 私立京北実業学校教諭を辞す。
六月 私立鹿児島高等商業学校教授に任ぜらる。
十一月 鹿児島高等農林学校講師を嘱託さる（昭和十五年三月三日まで）。

昭和十五年（一九四〇年）

三月 私立鹿児島高等商業学校教授を辞す。
四月 私立善隣高等商業学校教授に任ぜらる。
四月 東京商科大学予科講師を嘱託さる。
五月 明治大学商学部講師を嘱託さる（昭和十八年三月三日まで）。

昭和十七年（一九四二年）

八月 東京商科大学より経済事情調査（法幣価値下落にもとづく会計問題研究）のため中華民国へ出張を命ぜらる。
九月 帰国。

昭和十八年（一九四三年）

三月 私立善隣高等商業学校教授を辞す。
五月 東京商科大学附属商学専門部教授に任ぜらる。

一〇月 東京商科大学学部講師兼任を命ぜらる。
十一月 東京商科大学より金融経済事情調査のため満州国及び中華民國へ出張を命ぜらる。

昭和一九年(一九四四年)

四月 帰国。

四月 東京商科大学附属工業経営専門部教授兼附属商学専門部教授に任ぜらる。

昭和二十年(一九四六年)

四月 東京産業大学講師兼同大学予科講師兼任を命ぜらる。

昭和二十三年(一九四八年)

五月 巢鴨経済専門学校講師を嘱託さる(昭和二十五年三月三日まで)。

昭和二十四年(一九四九年)

六月 一橋大学教授に補せらる(商学部所属)。

兼ねて東京商科大学附属商学専門部教授に補せらる。

昭和二十五年(一九五〇年)

四月 学習院大学政治経済学部講師を嘱託さる(昭和二十六年三月三日まで)。

昭和二十六年(一九五一年)

八月 税理士臨時試験委員に任命さる。

昭和二十七年(一九五二年)

四月 公認會計士審査会試験委員(第二次)に任命さる。

昭和二八年(一九五三年)

四月 一橋大学大学院商学研究科担当を命ぜらる。

五月 公認會計士審査会試験委員(第二次)に任命さる。

昭和二九年(一九五四年)

四月 公認會計士審査会試験委員(第二次)に任命さる。

昭和三〇年(一九五五年)

五月 日本會計研究学会常務理事に選任され現在に及ぶ。

五月 農業協同組合監査士試験委員を委嘱され現在に及ぶ。

昭和三一年(一九五六年)

九月 一橋大学東京商科大学教授に併任さる。

昭和三二年(一九五七年)

四月 文部省學術奨励審議会委員に任命さる(昭和三四年三月三十一日まで)。

昭和三三年(一九五八年)

一二月 大蔵省より連合国人所有株式の戦争損害補償額測定方法に関する会計学的研究を委嘱さる(昭和三四年一二月三十一日まで)。

昭和三四年(一九五九年)

一〇月 自治庁・地方財務会計制度調査委員会に任命さる(昭和三十六年三月三十一日まで)。

昭和三十六年(一九六一年)

- 一月 司法試験審査委員(第二次)に任命さる。
- 二月 財団法人一橋大学後援会監事を委嘱され現在に及ぶ。
- 四月 文部省学術奨励審議会委員に任命さる(昭和三十八年三月三十一日まで)。
- 四月 一橋大学生生活協同組合理事長に就任。
- 九月 一橋大学東京商科大学より商学博士の学位を受く。主論文「安定価値会計の体系化」副論文「各国インフレーション会計の発展史的研究」。

昭和三十七年(一九六二年)

- 九月 日本会計研究学会を代表して「第八回国際会計人会議」に出席するため日本学術会議より外国出張を命ぜらる。
- 一〇月 アメリカ・イリノイ大学における「国際会計教育会議」において「Some Views on Accounting Education in Japan」と題して研究発表を行なう。
- 十一月 帰国。

昭和三十八年(一九六三年)

- 四月 文部省学術奨励審議会委員に任命さる(昭和四〇年三月三十一日まで)。
- 五月 著書「貨幣価値変動会計」に対して日本会計研究学会賞(太田賞)を受く。

昭和三十九年(一九六四年)

- 十一月 昭和三十七年一〇月国際会計教育会議で発表した「Some Views on Accounting Education in Japan」がヌイ・ローザンヌの「国際商業教育協会」より発行された『Revue Internationale pour l'Enseignement Commercial』No. 64 に英語及びスペイン語による全訳文とドイツ語による紹介文で掲載さる。

昭和四〇年（一九六五年）

- 五月 文部省大学設置審議会委員に任命さる（昭和四一年四月三〇日まで）。
- 七月 文部省視学委員（経済学・商学）に任命さる（昭和四二年三月三十一日まで）。
- 一二月 日本学術会議第七期会員選挙において当選す（第三部・全国区・商学経営学）。

昭和四一年（一九六六年）

- 一月 日本学術会議会員に就任（任期三年）。
- 九月 文部省大学設置審議会設置分科会専門委員に任命さる（昭和四二年六月三〇日まで）。

昭和四二年（一九六七年）

- 三月 停年制により一橋大学を退官す。
- 三月 一橋大学生生活協同組合理事長を辞す。
- 四月 一橋大学学則により一橋大学名誉教授の称号を授与さる。
- 四月 成城大学経済学部教授に任命さる。兼ねて同大学院経済学研究科を担当す。
- 四月 日本大学大学院商学研究科講師を嘱託さる。
- 四月 文部省学術奨励審議会委員に任命さる（昭和四四年三月三十一日まで）。
- 五月 文部省視学委員（経済学・商学）に任命さる（昭和四四年三月三十一日まで）。
- 七月 文部省大学設置審議会設置分科会専門委員に任命さる（昭和四三年三月三十一日まで）。
- 九月 公認会計士審査会試験委員（第三次）に任命さる。